京都帝國大學新聞
昭和十一年十一月二十日　京都帝國大學新聞社（金曜日）　第二一五百五十四号　（一）
（大正十四年四月十五日第三種郵便物認可）
月二回　一日　十日　十五日　二十日　発行
購読料　一年一部につき金五十銭　広告料　一回一段につき金一円　人間国宝細工師行商人　雄山閣
京都帝國大學新聞社　京都市左京区吉田本町　電話九二三番

舌端火を吐く 若き學徒の雄叫び

學内講演大會は廿八日午後 法經第二教室で開催

本學經濟學會主催の學内講演會は廿八日午後一時から法經第二教室で開かれる筈であるが、當日は多數の學生參加の豫想からなるべく多數を收容し得る場所を選ぶ爲め、法經第二教室に變更された。尚ほ當日は午後一時から休講となる。

講演者及び講演題目は次の如くである。

▽ファシズムと大學の自由　京都帝國大學教授　河合榮治郎氏

▽ファシズム文化の方向より見たるファシズムの發展性について（ヒットラーユーゲントの指導者シーラッハ氏の講演に對する批判）　京都帝國大學教授　高田保馬氏

▽大學生活の反省　京都帝國大學教授　矢部貞治氏

▽自由主義論　京都帝國大學教授　佐々木惣一氏

▽宗教問題私見　京都帝國大學教授　戸坂潤氏

▽金融統制を論ず　京都帝國大學教授　中島健藏氏

「國民運動の動向」

赤松克麿氏の熱辯

本學經濟學會主催の學内講演會は廿八日午後一時から法經第二教室で開かれる筈であるが、當日は多數の學生參加の豫想からなるべく多數を收容し得る場所を選ぶ爲め、法經第二教室に變更された。尚ほ當日は午後一時から休講となる。

講演者及び講演題目は次の如くである。

▽ファシズムと大學の自由　京都帝國大學教授　河合榮治郎氏

▽ファシズム文化の方向より見たるファシズムの發展性について（ヒットラーユーゲントの指導者シーラッハ氏の講演に對する批判）　京都帝國大學教授　高田保馬氏

▽大學生活の反省　京都帝國大學教授　矢部貞治氏

▽自由主義論　京都帝國大學教授　佐々木惣一氏

▽宗教問題私見　京都帝國大學教授　戸坂潤氏

▽金融統制を論ず　京都帝國大學教授　中島健藏氏

永井柳太郎氏の來學は廿八日か

◇植上げをそよをにそよ！◇
京大ホルン愛好會員●樋口西口●諸氏

完成する日本最初の滿洲語の辭典

四人の門下生を指導して 羽田博士の業績

新村出博士 還暦記念講演會

十二月五日

日本學術振興會の後期補助金きまる

本學關係は十五件

膠質科學研究所 愈よ、ちかく實現

法學會の大會

田島教授ら講演

青年期に多い 精神神經病

三浦博士の金曜講演

三助教授 海外へ

出發は明年 一月の豫定

石田教授 を中心に小集

滿洲へ出張

農學部長更迭

沼田大學氏に

CORONA STANDARD
英、佛、獨、露、各國語
小型輕快ノ ポータブル
而カモ機能ハ 大型事務用機ニ匹敵
完備
東京銀座 文適堂 京都寺町 店 澤商 電話銀座1638 電話上1004

長尾助教授 工學博士に

ドイツに

——學ぶべき點は……

附屬醫院長星野博士歸朝談

工學部の特別講義

二回に亘つて

その後の求人

法經兩學部へ

法學部

經濟學部

短歌鑑賞の心理

最新刊

英雄と詩人

——文藝評論集——

最新刊

健康と変質と精神異常

最新刊

自然と人

最新刊

人文書院

皇道・王道・覇道・民道

最新刊

學術論文の書き方

最新刊

工業組合論

最新刊

經濟學の根本問題

最新刊

厚生經濟學

最新刊

生としての經濟

最新刊

今後の日露關係

末廣重雄

内外時事

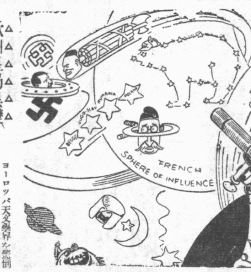
井上吉次郎

「人間の權威」を讀む

長田新

武藤貞一氏著「戰爭」を讀む

大山千代雄



歐洲星局異變！

ヨーロッパ大全域を好奇せしめてゐる最近の星座大變動、今度發見の新星はありません——ディリー・エクスプレス紙——

學園の秋

堀經夫博士著「經濟學の根本問題」

國府亮一

科學ペン

十二月特輯　綜合文化雜誌

特輯　今年度科學界の回顧　岡邦雄

自然哲學界——桑木彧雄
生物學界——寺尾新
物理學界——竹内時男
犯罪精神病學界——金子準二

特輯　現代社會と科學的に活きる道

一九三六年を顧みて　新居格
一九三六年を顧みて　三木清
一九三六年を顧みて　大谷瑩潤
横目で見た學者の生活　大谷瑩潤

人絹とホルモン　横顔　祖父江寛
女性とホルモン　赤須文男
科學情報　石井宇野・永野

社會時評　代々木新一郎・野澤清
科學的養護と主義　高田義一郎
科學的養護と主義　桑木彧雄
科學的養護と主義　竹内時男
科學的養護と主義　石原純

科學と社會　上坂酉三著（新刊）　菊判三三〇頁　定價二圓十錢
統一國際貿易規則の研究　上坂酉三著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢
商業英語の研究法　前田定之助著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢
商業英語　ベーシック式　商業通信文　本文三百頁　定價二圓十錢
國際貿易活法　古米地英俊著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢
英米兩式　商業英語檢討　中村長之助著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢
經濟英語　經濟學通論　山崎宗直著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

三十錢　三省堂　東京市神田區錦町一丁目　株式會社　三省堂　振替東京　七一四八番

國體の本義

文學博士　山田孝雄著

下卷完成

普及版發行

圖書目錄贈呈　文部省　東京市日本橋區通三丁目十番地　實文館發行

ディードリスト　經濟思想史

關西學院教授　古屋美貞譯

有朋堂商英叢書第五篇出來！

商英叢書第五篇　Study Of Universal Commercial Law　上坂酉三著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

統一國際貿易規則の研究

商英叢書第五篇　上坂酉三著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

商業英語の研究法

商英叢書第一篇　How To Study Commercial English　前田定之助著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

商業英語　ベーシック式　商業通信文

商英叢書第二篇　Basic For Business　小樽高商教授　本文三百頁　定價二圓十錢

國際貿易活法

商英叢書第三篇　Overseas Trade In Practice　小樽高商教授　古米地英俊著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

英米兩式　商業英語檢討

商英叢書第四篇　Analysis And Synthesis Of Business English　中村長之助著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

經濟英語　經濟學通論

經濟英語叢書解　山崎宗直著　菊判三三〇頁　定價二圓十錢

お待兼ねの
大好評の有本仕立　二十日—三十日
有本のスペッシャルセール
驚異的破格値段！
僅か　￥9.50ヨリ
(英國製ラクダメルトン地)
壹百點限り
制服も有本で！
￥20.00ヨリ
有本ベンアリモト

代議員選擧は けふ午後四時まで

……一人も洩れず投票して 學生の總意を示せ

昭和十二年度の學友會代議員選擧はきのふとけふの兩日にわたつて各學部事務室で行はれてゐるが、定員四十五名に對し立候補七十七名に達し、その中運動部關係は五十四名で文化部關係に無所屬を合せて二十三名といふ數を示してゐる。投票は各學部事務室で午後四時まで行はれてゐるから有權者は一人ももれなく投票されたいと、なほ學部別に候補者氏名を示せば左の通り

法 定員 一一名 立候補 二三名

▼佐久間陽之助(柔道部)▼原士良(籠球部)▼宇田久重(籠球部)▼末次達吉(弓道部)▼浦井十一郎(美術部)▼大野一義(共濟部)▼宮崎忠一(陸上部)▼安井隆(卓球部)▼千葉修太郎(庭球部)▼堤正泰(水泳部)▼小野勝示(端艇部)▼柳内武(講演部)▼志村政明(ラグビー部)▼矢野誠二(無所屬)▼村岡一郎(無所屬)▼田中知忠(野球部)▼寅西進(無所屬)▼西嶋惣兵衛(劍道部)▼下山清(無所屬)▼石田典雄(無所屬)▼大久保武男(馬術部)▼直木力(音樂部)

醫 定員 五名 立候補 一〇名

▼中原大茂(射撃部)▼小塚以文(蹴球部)▼巽正司(スキー部)▼宮崎淳臣(共濟部)▼宮脇濟(美術部)▼吉田壽三郎(共濟部)▼長谷川定(柔道部)▼齋藤雄三(劍道部)▼林和夫(スケート部)▼松原孝造(馬術部)

工 定員 六名 立候補 七名

▼北本明信(排球部)▼横山義一(スキー部)▼宇田正一(共濟部)▼豐田忠男(陸上部)▼小田柿浩三(陸上部)▼山本健(ラグビー部)▼上田稔(ホツケー部)

文 定員 五名 立候補 七名

▼中森増三(籠球部)▼森谷周英(弓道部)▼河北倫明(美術部)▼下村敏馬(ラグビー部)▼森信成(無所屬)▼吉村長久(馬術部)▼村上尚治(無所屬)

理 定員 五名 立候補 六名

▼瀬尾正雄(スキー部)▼船橋正六(共濟部)▼菊池秀夫(陸上部)▼宅和彦(ホツケー部)▼東松富一(スケート部)▼關根三郎(馬術部)

經 定員 八名 立候補 一六名

▼野村正之(射撃部)▼東館省三(柔道部)▼政家英作(籠球部)▼千々松清(講演部)▼松原榮二(排球部)▼杉山嘉一(陸上部)▼菅博太郎(庭球部)▼河村秀利(水泳部)▼前田央夫(端艇部)▼小林禮次(籠球部)▼由良倫(ラグビー部)▼齋藤和夫(劍道部)▼増山太助(無所屬)▼長井洵(無所屬)▼佐々川豐(無所屬)▼藤田陸平(馬術部)

農 定員 五名 立候補 九名

▼小山守一(弓道部)▼吉原清郎(排球部)▼山本武敏(美術部)▼田中泉(卓球部)▼小倉武(庭球部)▼松村慎(水泳部)▼佐藤宗司(スケート部)▼山口善三郎(無所屬)▼網脇良美(馬術部)

有權者數 昨年に比し增加

選擧有權者數を昨年度のそれと比較すると

學部	本年度	昨年度	增減
法	九一五	八九三	二二增
工	四一六	三九五	二一增
醫	三六四	三七八	一四減
文	三一二	三六五	五三減
理	一五三	一五一	二增
經	四九一	五〇七	一六減
農	一八六	一八九	三減
計	二八三七	二八七六	四一減

なほ之に立候補七七名を加へると總員前年度より三十六名を增したことになる

白石海軍大佐の特別講演 第二回はけふ

本學配屬將校は昨年海軍から關根郡平氏を招聘し、教練講義の一部として特別講演をなしたる例にならひ、本年も教練學生のため海軍側に交渉し海軍大學校教官白石萬隆大佐を聘し、教練學科の一部として海軍特別講演をすることゝなり、その第一回は去る十日午後三時十五分から二時間にわたり行はれ、第二回は本日午前十時十五分から約二時間の豫定で行はれる、教練學生にして出席せるものは一回分として回數に數へられる便宜がある

大佐を圍む座談會 滿蒙研究會で

白石大佐の講演終了後、京大滿蒙研究會では、二十日午後一時から同大佐を中心に、樂友會館廣間で座談會を開くことになつた、一般希望者の出席を歡迎する

內職振はず 一般市民の一層の理解と利用を共濟部は切望

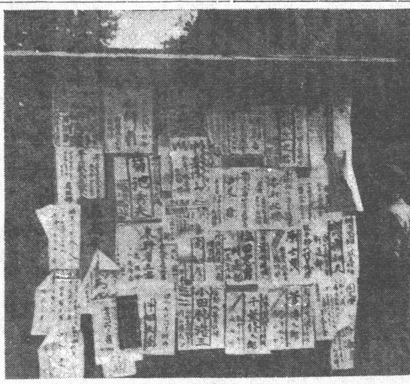
一九三六年といふ軍需景氣の非常時的氣分は、また就職戰線にも直截に反映し、たとひ跛行的であるにせよ、今年の就職狀況は、單に工科系統のみならず、法經等のビジネス方面にも、幾分か好調を豫想されてゐるやうだが、之に對し在學生の內職斡旋に努力してゐる共濟部の就職狀況はどうか、試みに十月の統計を打診して見ると內職希望三百五十名に對し決定三十七名の約一割で極めて不振である、これら決定者の就職分野は、講演速記十二名、家庭敎師六名、筆耕四名、翻譯二名、編輯一名、其の他肉體勞働等十二名である、內職希望者三百五十名のうち法科が一二二名で最も多く、文科の五四名、經濟の四二名が之につぎ理醫工農が最も少い

內職事業の不振は未だ一般に之が趣旨の行きわたつてゐない點も大いにあるらしく、同部では一般市民の一層の利用を希望してゐる

滿蒙研究會龍大と柔道試合 明廿一日午後

京大滿蒙研究會ではその月例の一たる身體鍛錬の一方法として明廿一日午後三時半から本學道場に龍大柔道部を迎へて一戰をこゝろみることになつた、同會からの出場選手左の如し

大將花田、副將古賀、金、尾阪、白崎、林、小豆澤、東山、高田、黒川、東條、松元



◆―揭示場を塗りつぶす選擧戰―◆

學生就職雜感

大野生

年々歳々のことながら又、就職の時機が來た。職掌柄とは云へ暗い氣持で憂鬱になり勝ちである。學生課の學內詮衡が問題になつてゐるやうだがこれは例へば二名の所を十名も志願すれば仕方がないと諦めて貰はねばならぬ。それも人間が人間の詮衡する以上幾分の間違ひは許してもよくはないか。以前一人で勝手に詮衡してゐた時は隨分批難もあつたが、本年は學生課長が中心になつて三、四人でやつて居られるので割合公平だと思つてゐる。

大學令の第一條から考へれば大學教育は職業教育でなく「國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ敎授シ其ノ蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ、兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス」といふのだから、この目的に添ひさへすればよいようなものだが、僕等は學生の世話をする役目である以上、卒業後の就職、延ひては結婚までも世話するのだが當然かも知れぬ。

僕は昭和二年今の職に就て以來就職問題等は學生課と云ふよりは寧ろ學友會の仕事ではないかと思つてその時から出來る丈けの努力もし、進んでは結婚養子縁組の事にまで及んでゐるが仲々思ふやうには行かない。それが段々擴張されて學生課の大きな仕事になつてゐる。總長までこの所謂就職戰線に飛び出して大阪まで出たこともあるが、僕は大學としてはさうまでしなくとも、理科系統は敎室で法、經等は學生課か學友會で世話すればよいと考へてゐる。

僕は現今は(今許りではないかも知れないが)就職難といふよりは寧ろ人物難だと思つてゐる、學術、人物、身體、思想と云ふやうなものが優秀であり、信頼するに足る人は、先方より指定して來て隨分競爭で欲しがつてゐる、今まで隨分その例もあつた。こんな人は在學中によく自己の眞價を知らせてくれたら僕は責任を以て必ず就職は引受ける。

「君が全責任を以て引受け、この者ならば信頼するに足ると確信する人があつたら無條件で引受けるよ」と就職を頼みに行つて屢々言はれることがある、然しイザと云ふ場合、寧ろ人物難に困難する。

就職には熱心と、努力と、準備が必要である。新聞部の委員をしてゐた者が是非或る大新聞社に入りたいと云ふので、人物は僕が紹介するから、次は君の熱心と努力で行けと云ふた。その學生は押しの一手で行きも行つたり四十幾回も大阪まで僕が紹介したその社の友人に通つて成功した例もある。滿洲に行きたいと云ふ者が、滿洲建國の事も知らず、遼東半島が天津から出てゐるとか、山東と間違へたりするやうな準備では取りたくも取られぬのは止むを得まい。要するに充分準備して魂でぶつかることが必要だ。

同郷や高等學校の關係で、當然世話しなければならぬやうに思ふのは間違つてゐる、今の學生は餘りにも他力主義だ、學生課にも頼り過ぎる。死んだ大阪市長をしてゐた加々美君に紹介狀を持たしてやつたら机の引出しを三ツ程開けて、一杯になつてゐる紹介狀を見せ、こんなに皆が持つて來るので紹介狀だけでは駄目だといはれてスゴ〳〵歸つて來た學生もあつた。

就職に必要な履歴書の書き方とか、紹介狀の出し方とか、風采上や應對等の心得は、少し注意すれば何でもないことで、心がければすぐわかる事柄だ。固くなつてはいけないといふのは修養の問題で擦ずれしてゐるよりよいかも知れん。

每年きまつて採用申込のある所は、一々頭を下げて廻らなくとも必要な人數だけは採用してくれる。

と思つてゐる。僕等の心すべきことは今まで採用してゐぬ所を開拓することだ。それから學術優秀で思想健實、身體强壯と云ふ者は、ほつて置ても、どこかに採用してくれる。こんな學生を世話しても自慢にはならぬ、寧ろこれと反對の學生は仲々就職に困難だ。こんな學生こそ學生課でウンと力を入れて世話すべきであると思つてゐる。

紙數も盡きたので最後に一言したい事は、運動しなくとも當然每年申込んで來る所を統計に出して自慢顏するのも苦々しいが、世話になる時はお百度參りに來て一旦就職がきまれば、自分だけの力で入つたやうな氣持で就職の出來たと云ふ端書一枚くれぬ者の年々多くなつた事は何更苦々しい事である。

看護婦寄宿舍の"寮歌"發表さる

▼…當選は歌人光田法學士

醫學部附屬醫院でかねて賞をかけて學內學外から募集した看護婦寄宿舍の寮歌は應募總數九十七篇の多數にのぼり、先般文學部教授成瀬無極博士の手で選をおはつたがいつそ作曲の上で發表しようといふ說もいで、すでに專門家に依囑してあるがこれまた相當時日を要するので、とりあへず左記の如く發表した

▼當選 光田作治 ▼佳作 長崎太郎 佐々木硬子 竹中實

當選歌の作者光田作治氏は大正十五年京大法學部卒の法學士、現在本學圖書館で司書をつとむる人、雜誌「水甕」の同人として知られた歌人でありまた近年短歌の新しい朗詠者としてBK、OK等からしばしばマイクの前に立ち美聲を電波にのせて有名になつた歌詞は左の通り(寫眞は光田作治氏)

(一)
さみどりの丘のふもとに
せゝらぐや水の明るく
白衣のほこりもたかく
集ひ來しおとめごわれら
讃へなむ いざ心一つに
望み滿ちて 今浮くあらなむ

(二)
生れ出づる鋭聲にまじり
病みらどのといきおもほゆ
たふとかる生きのいのちぞ
みとるべくつとめは重し
護りなむ いざ 力あはせて
身一つを 今 強く生きなむ

(三)
つとめをへし心かろさよ
比叡が嶺に雲高光り
夜とならば星またゝかむ
大空のもと心ひらに
歌ひなむ いざ 灯あかるく
幸多く 今 われらあらなむ

報告講演と映畫の夕べ 學徒研究團

京大滿蒙研究會では至誠會と共同で去る十四日夜YMCAで、滿洲、北支、南洋派遣學徒研究團の報告講演ならびに映畫の會を催し、左記諸氏の報告あり

▼王族に就いて(學生千々松清)▼北支の農業(農・助手松本平一郎)▼滿洲移民(橋本傳左衛門敎授)▼第二の使命(學生栗田秀三郎)▼皇道と王道との關係(小早川助教授)▼國境に立ちて(學生尾坂浩樹)▼南洋に旅行して(下村壽造)▼南洋事情(松山基範敎授)▼至誠會の使命(中村野大佐)▼滿洲の國防(神慈惠醫大敎授)

終つて映畫「拓け滿蒙日本の使命」全三卷を映寫し十一時散會した

蹴球關學に慘敗す

本學對關學サッカー試合は十五日甲子園球場で行はれたが七對二のスコアで本學大敗した

今からでも遲くは無い

既に書面は發せられたが速かに善後策を

秋晴の空に暗愁な世相が學園に濺んでゐる、それは授業料未納者への卽時納入すべし、然らずんば除名處分に付すべしと云ふ學校當局からの指令が各父兄に飛んだことだ

會計課で未納者數を聞くと法學部の百七十一名を筆頭に文學部の七十八名、經濟學部の七十二名、理學部の二十五名、農學部の二十三名、醫學部の十七名、工學部の十四名、計四百名に達してゐる

中には使ひ込みに由る未納者もあるであらうが大多數は經濟不況、農村不況の餘波を蒙つた氣の毒な家庭の學生であらう、未納者數が逐次激增の傾向にあることを以て經濟界不況の深刻さを測る一種のバロメーターと見られないであらうか

我ホッケー部早大と爭霸戰 全日本選手權大會へ

さる八日三高を六對一で破つた本學ホッケー部は十五日關大を破つて關西學生リーグ戰に全勝し來る二十八・九日の兩日東京戸山學校で行はれる全日本選手權大會に出場する權利を得た、卽ち關大との試合は十五日午後一時本學農學部グラウンドで飯田、守屋兩氏レフリーの下に行はれ四對二で輕く之を一蹴した本學は之で全勝の成績となり全日本大會に關東の勝者早大と霸を爭ふことゝなつた

ラグビー部立教に快勝す 二十六對十一のスコアーで

第四回本學對立教ラグビー試合は一勝一敗一引分の後を受けて去る八日南甲子園で午後三時から本學先輩長沖氏主審の下に行はれたが懸念された本學バック陣の好調により廿六對十一のスコアーを以て之を輕く一蹴した

立命館に大敗す

關西にかけて無敵の名をほしいまゝにしてゐる本學ラグビー部がさる十五日立命館大學に不覺の敗北を喫してセンセイションをまき起した、卽ちこの日本學は立命の實力を輕視してか多數の新人を起用して之に對した、その結果ハンドリング、コンビネーション共に惡く殊に立命のオフサイドに近い早いチヤージにハーフは殆んど球をバックに廻し得ず、僅かに前半2トライを得たのみで二十二對六の大敗を喫した

アイスホッケー三大學リーグ戰 二十四日から三日間

本學・同大・關學の三校の內で今回アイスホッケー學生リーグが結成され、來る二十四、二十五、二十六の三日にわたり京都リンクで第一回大會が開催されることゝなつた、その組合せは次の通り

▼二十四日本學對關學
▼二十五日本學對同大
▼二十六日關學對同大

籠球奮戰して神商大に勝つ

關西學生籠球リーグ戰第二日は去る十五日京都一中コートで行はれたが本學は55對46のスコアで神商大を破つた

運動部メモ

▼ラグビー部 二十二日對關大對同大OB、二十九日對關學對學士ラガー、十二月六日對同大AB
▼ホッケー部 二十一日對神戸外人定期戰、二十八、九日全日本選手權大會(東京戸山)
▼籠球部 二十二日對關學戰
▼アイスホッケー部 二十四、五、六日第一回關西學生リーグ(京都)、十二月五日對同大定期戰
▼排球部 二十二日學生リーグ第二日目(京都)
▼蹴球部 二十三日對關大
▼馬術部 二十五─二十八日名古屋東京間長途騎乘隊に參加
▼卓球部 二十三日學校對抗

黒田君ベストテン一

秋の球界を賑はしつゝあつた關西六大學野球リーグ戰は去る十日神商大對關學の一戰を最後として終了したが本學は六勝七敗勝率四割六分二厘で關大立命に次いで第三位となり春季の三勝九敗二割五分の第五位に比して異常な躍進振りを示した、なほ本學左翼手の黒田君は四番打者として堅實な打棒を振ひ三割七分五厘の打率でベストテン第一位を占めて本學野球部のため萬丈の氣を吐いた

排球部は一勝一敗

關西學生秋季排球リーグ戰第一日は去る十五日午前九時から本學コートで擧行された、本學は三高に一勝したが關學のために一敗し結局一勝一敗となつた成績左の通り

本學 2(21─14、16─21、21─15)1 三高
本學 1(10─21、13─21、21─18)2 關學

法學部の特別講義 細野長良氏來講

法學部の本年度第二回特別講義は左記の通り決定した

▼民事訴訟法研究に就て(大審院判事細野長良)
▼三十日(月)午後一時から法經第四教室で

高校校長の懇談會 きのふ本學で

本學では昨十九日午後三時から全國官公私立高校校長を招待して懇談會を開催、出席校長は廿六名(一高、廣島、東京、松江、武藏、浪速、臺北、山口の各校長は不參)に達し、本學からは松井總長、各學部長、各課長ら出席し、高校と大學との連絡について意見の交換を行ひ、終つて敎官會堂で晩餐を共にした

有信會の年內行事

春以來講演會、社會見學、旅行、座談會、小集會等有意義なる活動をつゞけて來た法學部有信會では本年度殘りの行事としてさらに次の如きスケヂユールを發表したが、その詳細は追つて發表される

▼第四回小集會(十一月中)
▼裁判公判傍聽(十一月下旬)
▼文展觀賞(十一月上旬)
▼映畫鑑賞(十二月上旬)

The SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY
ON HISTORICAL PRINCIPLES
2nd EDITION
Prepared by W. Little, H. W. Fowler and J. Coulson,
Edited and Revised by C. T. Onions
四六倍判 全二巻 濃藍バツクラム裝、總紙數(三段組)二五〇五頁。
ショーター オツクスフオード 辭典改訂第二版
改訂の個所は新事項の附加、解說の更改、補訂大小合せて三千、牛津大辭典の十全完璧な代行者として愈々 Up-To-Date な面目を整備
一時拂 四拾五圓
月賦拂 五拾圓
規定申込金五圓
每月五圓宛九回
現品御入手と同時に第一回月賦金御拂込みの事
5圓月賦御入手可能
月賦契約書御申越次第送呈
東京日本橋通・電話日本橋(24)2121・2131 振替東京5番
丸善株式會社
(東京―神田・三田・早稻田・丸ビル)・大阪・神戸 京都・名古屋・横濱・福岡・仙臺・札幌・京城

"京都では日出新聞!"
京都に無敵を誇る本紙の内容は京都市民必讀の金字塔であり、迅速にして正確、興味深くして清新、その名聲隆々たる他の追隨を絕對に許しません。京を知らんとせば先づ本紙をお讀み下さい!
京都日出新聞
朝夕刊八頁
日曜夕刊八頁
定價一ケ月七十錢

(最新刊) 東京帝國大學助教授 工學博士 隈部一雄著
どらいぶういえ
★四六判美布裝二五〇頁・挿繪一六葉・定價一八〇・送料八〇★

朝日新聞當時の著者 鎌倉丸船上にて

本書は蓄音機通として、又モータリストとして汎く知られ且文筆の人としても著名である著者が、最近の歐洲自動車旅行記を中心としてこれに獨特の評論・隨筆を配したものである。
而して本書中「轍の跡」以下前半は著者の歐洲自動車旅行記を經とし滯獨半歲の見聞を緯としたものであつて、流麗簡潔なる行文は著者撮影の寫眞と相俟つて讀むもの自ら異境の風物、國情を親しく見聞するの思ひをなすであらう。國際的日本國民として智識人として本書を讀まざれば會話の話題に窮することがあるであらう。後半は音樂評論、工業に關する見聞記等を含む著者の多角的才能を示す隨筆集である。本隨筆集を一貫するものは日本的情熱と科學的冷徹の交錯せるエスプリである。機智と暗示とに富む文章は社會の各層に向つて何等かの反響を與ふるに相違ない。敢て一讀をすゝめる。
(全國書店發賣) 東京神田神保町二丁目 振替東京二一六一九一番 山海堂出版部

白井直眼鏡店
京都帝大病院前
電話上(3)2279
振替大阪30580
京都帝國大學病院各眼科病醫院御指定所
新案特許國産優秀 元賣發 光國 レンズ
大阪東區平野町四丁目 電話北濱(23)0163

各種ストーブ据附請負
京大御用達
八木商店
東今出川加茂大橋東詰
電話(3)上二六八一番

The Study of English
英語研究
十二月號
生きた現代英語の把握は本誌へ
英學黎明期の人々…
新語新解(時事解說)…
貿易の動向(倫敦タイムズ)…
メンケンの「米語」…
海外新刊紹介…
英國の綿業恢復(社說)…
世界文學を英語で:西班牙の巻…
ウナムーノ作「死身これ明」…
聖寵を迎へ奉る(社說)…
エンマ叔母(說話)…
祖國を護る者(トーマス・モア)…
古代希臘の國家觀念…
運動と心勞(スポーツ時文)…
語學雜考…
ダービシャーの種羊(小說)…
和文英譯演習…
大學入試問題研究…
時事漫畫寫眞…
定價四十錢(送料一錢半)
東京麴町富士見町 研究社 振替東京二八六〇
DEC 別冊附録
The Eiken International Review (英研國際評論)
German Claim To Colonies……The Times
Democracy In Russia……World Review
Snapshots of Tokio……News Chronicle
Issues And Men……The Nation
Hell Over Spain……Review of Reviews
本誌に海外評論中の白眉珠玉篇のみを摘錄して、之れに精緻なる註釋を添へ以て簡易に世界動向を窺はしむ。(四六倍判二十六頁)

ジェイムズ・ファレルの小説

高垣松雄

少年スタッヅ・ロニガンはペンキ屋の息子である。カトリックの小學校を卒業して、いよ〳〵長いズボンが穿ける年齢になると烟草を吹かすことを覺え、同じ街の惡童どもと喧嘩をしても負けはしない。ほのかなる春のめざめに惱むようにもなる。父親は仕事の手傳ひをさせたく思ふが、母親の方はカトリックのお坊さんになれといつて口説く。スタッヅは働くのが嫌といふのではないが、小僧になつてコキ遣はれたり、ヘマをやつたりして自尊心を傷つけると思ふとたまらない。學問も好きではないが、ともかくハイスクールへ行かせて貰へるだけの餘裕はある。フットボールの選手として有望だと目をつけられ、練習に顔を出しもするけれども、學校をサボるので規則的に練習に加はらない。先輩に叱責されると、そんなに束縛されるのなら御免蒙るといふことになる自墮落な生活はいよ〳〵甚だしくなる一方である。十八歳になつて、父親から決心を強ひられごてごていはれるなら家をおん出て行くとて、隠し持つてゐた古拳銃と、母親の財布から紙幣を數枚ひきぬいて身につけ、家出をするが、結局、ホールド・アップの眞似事をして失敗し、すぐ翌朝は連れ戻されてしまふ。それから觀念してペンキ屋の手傳ひを働き、週に十二ドル貰つていゝ氣持になる以上は「少年ロニガン」と「スタッヅ・ロニガンの青年時代」の荒筋である。新しい作家ジェイムズ・ファレル（一九〇四年生れ）の名が雜誌の上で喧傳されるのを見て、その有名な三部作スタッヅ・ロニガンの物語をぜひ讀みたいとは前から思つてゐた。昨年の暮であつたか、「ネイション」誌がこの作品こそ一九三五年度のピューリッア小説賞に値すると推稱してゐたし、エルマー・ライスの言葉の中にもファレル禮讃と聞かれるものがあつた。シカゴで生れた作家ファレルがその若い頃の經驗見聞を基にして、アイルランド系アメリカ市民の世界、わけてもその典型的な不良少年スタッヅ・ロニガンと彼の環境を描いたといはれる名作は、また我々の好奇心を動かすに充分である。批評家たちはこの作品の思ひきつた寫實的な手法と、作中人物の用ひる言葉のあまりにも下品であることを指摘するが、それは決して非難の意味でなく、むしろ作家の巧みな再現を褒めてゐるものと思はれる。

前記の荒筋によつてこの作家のよさを傳へることの不可能はいふまでもないが、少年ロニガンの環境を或程度まで讀者は想像されるであらう。そしてこの少年の生ひ立つた時代が何時であつたかを識れば、一段と彼の行爲を理解し易くなるであらう――。スタッヅが小學校を卒業した年にウイルソンが大統領に再選され、その翌年一九一七年四月にはアメリカの歐洲大戰參加が宣布されたのである。アメリカの參戰といふ事實が一般市民と少年たちをどのやうに昂奮せしめたか、その狀態を描き出した「青年時代」第一章はこの三部作の中でも出色のものである。

スタッヅが仲間の者と年齢を僞り、體重を増さうとしてバナ、と水を鱈腹詰込んで志願兵徴募係の事務所へ押かける前後の情景は實に素晴らしい描寫である。

この馬鹿げた情景を我々は笑つて眺めてばかりはゐられない。それを生み出させた事實に對して作家ファレルは讀者の反省を要請する意味であらうか、バガアリアより移住者である貧しい靴屋を點出して側面から批評させてゐる。併しながらファレルは作品の中で理窟を並べはしない。生活の雰圍氣を活々と再現し、それと同時に人物の行爲と心理を直接的に――説明的にでなく――我々に紹介する。

スタッヅ・ロニガンの環境はジョイスの「若き日の自畫像」やドライサーの「アメリカ悲劇」のそれに共通なものがあり、中心人物の年齢もほゞ同じので、是等三つの作品を技法の上から比較するのも面白いのであるが、ファレルは寧ろジョイスに近く、而もわざとらしい技巧が感じられない。のびのびとした自然さがファレルを親しみ易からしめてゐる。尤も「青年時代」ではドス・パソスが「北緯四十二度」等の三部作で用ひられてゐる「カメラ・アイ」の技巧に類した方法を採用してゐるが、總じて所謂實驗的と呼ばれる方法に附隨する難解な構成や諸技法は見られない。たゞアメリカ的なスラングの頻出に面喰ふ位である。

（三部作の最終卷「審判の日」はロニガンが廿八歳で死ぬ經緯を語つたものであるが、こゝでは時代は早くも一九二九年で、大恐慌の混亂が寫し出されてゐる。わたしは目下休養中で之を未だ精讀してゐないので、以上でファレルの作品の紹介を擱筆しなければならない）

大島豊氏著「世界觀の哲學」

赤城啓

著者は既に「宇宙論」「現代哲學史」「自然科學より哲學へ」「哲學の使命」等の多くの哲學書を公けにして自らの哲學的立場を築くべく精進せられた良心的な學徒である。

本書は專門哲學者に對してゞなく廣く一般知識人の思想の糧として世に送り出されたものではあるが、そこに盛られた内容よりすると、一面一つの哲學史とも觀られると共に、他面著者の宗教的確信に基づく實在論的立場に立つ理想主義よりして、古來幾多の哲學――世界觀を紹介しこれを批判して、更にそれら諸々の哲學體系を踏み越えて著者の學的認識の體系を打ち建てやうとするアムビシアスが窺はれる。

著者の打ち立てやうとする新しい世界觀の哲學は頗る壯大であり、そしてまた終始科學的たらんことを努めてゐる「科學的基礎を有する現代的世界觀」が著者の向ふところであつて、常に「最大可能の範圍に於いて、今日の科學的研究の成果を哲學體系の基礎とすること」を哲學の使命と確信して思索されてゐる。著者の哲學――世界觀の基調は飛躍的進化の理論であつて、物質、生命、心、人格の四つの連續した存在が、究極實在たる宇宙的原動力に基く創造的・飛躍的進化の各階梯であると論證せんとするものである。

第一篇は「世界に就いての認識」として解り易く認識論を述べ、第二篇は「世界の本質」として哲學史上の主要なる哲學思想の批判と同時に著者の見解を示し、第三篇において「世界の一分子としての人間」として積極的に著者の見解を押しすゝめてゐる。嘗て田邊元博士の「科學概論」が哲學入門書として滿天下の青年學生の愛讀するところとなつたが、大島氏の本書もそれに並び、或は次いで良き哲學入門書とも考へられる。

本書の解説・批判は懇切ではあるが、もちろん全的に容認し得られるや否やは疑問である。例へば辨證法的唯物論の批評の所で、唯物論唯心論の究極問題としての物質について、今や原子理論も電子理論も科學的に何等の理由がなくなつてゐる。物質とか原子とか電子とかの如き要素と同樣に根本的のものとして、形式 Form 及び構成組織 Organisation が發見し恐らくこれ等が遙かに重要な意味あり、と思はれるであらう、と論じてゐる（一〇八頁）のに對して何か一抹の學的不安を覺えぬであらうか。

尚は望蜀の感としては、卷末參考文獻と本書の内容との聯絡をも少しく詳細にして欲しかつたと思ふ（第一書房・一圓五十錢）

冬の蠅

石川欣一

元來、蠅はうるさいものである。わが國では五月蠅と書いて「うるさい」と讀ませる。これは浮雲乘が「あぶない」四月一日が「わたぬき」一尺八寸が「かまづか」であると同じやうなこじつけだが、それはさておき、蠅のうるさいのは決して、五月、つまり夏に限つたことではない。

僕が今住んでゐるのは大阪郊外の、箕面に近い牧落と云ふところである。こゝは陸地測量部の地圖によると、海拔六〇米、而もその六〇米のマークがはいつてゐるのが、僕が借りてゐる家の敷地なのだから甚だもつて愉快である。地圖を云々し、海拔を云々するならば、僕は三千米の山に登つて初めて生甲斐を感じるのであるから、六〇米なんてをかしくて、と云ふところだがこゝは全然の感じが、如何にも高原的である。現に數日前、信州大町の對山館主人が大阪に來て僕の家に一泊したが、翌朝あたりを眺めて「こゝは非常に大町に似て居ますね。向ふの山がまるで鷹取山です」と云つて居た。鷹取山は大町の東方にある山であり「向ふの山」とは箕面の山であるから高さは勿論違ふが、高原的であることは同じなのだ。

高原的と云ふのは、先づ日がよく當ること、風が吹き通すこと、水が澄んで居てうまいことの、三條件を必要とする。僕は牧落禮讃記を書くつもりではない。だからこの三つについて長々と説明はしま……

京都市及び近傍の地名（下）

杉村正治郎

馬の首を拔く

市河三條

「日本文學の世界的位置」

前括學

四後書

吉田界隈

京都微生物研究所

1937年度
海外新聞雜誌御豫約期
オリムピック記錄の更新は四年目一しかも政治・經濟科學等の國際的優劣は、時々刻々に變動する。その記錄板を前に不斷の精進をなさんとせば海外新聞雜誌の購讀に絕對に必要！
丸善株式會社京都支店

英國PIB超特作品マルカム・サーゼント音樂指揮
リグマーター・ナマラ　スマート・バーク主演
カルメン
久しく待望された歌劇カルメンの最初のトーキー化!!
世界を見よ
カタリナの幸福
丗三日より封切　キネマ俱樂部

衛生百貨の御用命は
新裝完成の
東山藥局
電話上三一四〇番

TEA ROOM
ホワイト．ハウス
洋食・喫茶・洋菓子
農大グラウンド北・高原通南入

万榮商店

眼鏡
帝國大學醫院眼科
府立醫科大學眼科
赤十字社京都支部眼科御指定
眼鏡專門
正確廉價
吉川眼鏡店

日本のインキを代表する
アテナインキ
鮮明な旗幟
ATHENA
最寄の文具店でお求め下さい

各眼科病院御指定
眼鏡專門
視力瞳

新刊雜誌書籍の御用は
富貴堂へ

海外新聞雜誌豫約募集1937
日新書院